

「全鍍連」 2021年 10月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 笠間 敦嗣 (二葉産業(株) 代表取締役社長)

「尾張と三河」



愛知県というと皆さんは何を想像されるでしょうか。食文化で言えば「名古屋めし」と言われる、味噌煮込みうどんやひつまぶし、手羽先、コメダ珈琲などが知られ、経済界ではもちろん「トヨタ」が筆頭に上げられることと思います。この名古屋も豊田も同じ愛知県内にあるわけですが、古くは「尾張国」と「三河国」という別の国でありました。県外からはなんとなく愛知県という一つの地域に「名古屋」と「豊田」があるイメージでしょうが、国が違えば文化や言葉も違い、未だに「尾張」と「三河」はそれぞれ別の地域としての名残があり、名古屋生まれで名古屋育ちの私は名古屋人で三河人でもなければ、愛知県民と言われても何かしっくりこない感じを持っているのです。織田信長は尾張国、徳川家康は三河国、愛知県の西部と東部という言い方もあるのですが、何かと尾張と三河という表現で別けることがあり、戦国時代を現代においてなお引っ張っている感じさえあります。

同じ愛知とは言え、この尾張と三河の地域性の違いにはどのような事があるでしょうか。まず言葉ですが、名古屋弁では「～だがや」とちょっと強めの語尾に対して、三河弁は「じゃん、だら、りん」と柔らかめな感じの話し方です。仕事としては、名古屋城の城下町として商業的に発展した尾張と、綿花栽培という農業から、自動織機、自動車工業的に発展した三河という事があるのですが、どちらの地域も慎重で保守的、堅実なタイプが多く、地元意識が強く、その分他の地域の物事を受け入れ難い雰囲気を持っているようです。京都や東京とは異なり、都の来ていない愛知県を中京と呼ぶのはいささか自己愛が強すぎるかと思えます。

堅実で儉約な資質は事業経営においても現れており、無借金経営志向が強く、銀行としても預貸率が低く、製造業が多く設備投資が必要な割に預け入れに対し貸出が少ない状況で、名古屋金利という他地域に比べ低金利の状態になっています。また、コメダ珈琲をはじめ喫茶店が多いのも、昔からの文化的な側面もあるようですが、仕事上、喫茶店を打ち合わせの場所として使い、おもてなしをしているようで、社外の人を会社内に入れないという閉鎖的な側面の現れかもしれません。県外に出にくい状況下、近隣の違いをあらためて考えると意外な面白さも見つけられそうです。